

日本福祉介護情報学会ニュース

2010年度第2号

2010年10月31日

発行：日本福祉介護情報学会

(<http://jissi.jp>)

埼玉県新座市北野1-2-26 立教大学コミュニティ福祉学部

森本研究室内 jissi-mail@e-wel.ne.jp

【目次】

1.	第11回研究大会のご案内	1
2.	学習会報告	3
3.	学会紀要について	3
4.	「福祉・介護の情報学」について	4
5.	事務局から	4
	(編集後記)	4

1. 第11回研究大会のご案内

日本福祉介護情報学会理事・第11回研究大会 事務局

(関西学院大学) 生田 正幸

1 大会趣旨

少子高齢化がもたらす極めて大きな困難が、いよいよ現実のものとして私たちの前に立ちほだかりつつあります。社会保障、介護、福祉、医療、保健をめぐる状況は深刻の度合いを増す一方であり、政治・経済の不調とも相まって、あるべき対応の行方が見失われがちです。

今大会では、これら山積する課題の中から、高齢者介護サービスのあり方に焦点を絞り、ICT化・情報化の可能性と課題について議論することで、問題意識を整理するとともに、福祉・介護分野におけるICT化・情報化の今後のあり方について、改めて認識を深めたいと考えています。

ご承知のように、介護保険制度が導入されて10年が経ち、現在、2012年度の抜本改正を視野に議論が進められています。この間の急激な高齢化の進行にともなう利用者増と重度化による費用の拡大は著しく、財源の確保が喫緊の課題となっていますが、保険料の引き上げや公費負担の拡大には限りがあることから、サービス提供＝利用のさらなる効率化を迫られることは必至と考えられます。

一方、2010年6月に公表された政府の「新成長戦略」に見られるように、医療・介護・健康関連産業を、高い成長と雇用創出が見込める「成長牽引産業」として位置づけ、積極的な振興を図ろうとする動きも本格化しつつあり、経済産業省の「医療・介護等関連分野における規制改革・産業創出調査事業（医療・介護周辺サービス産業創出調査事業）」など、限られた社会的資源の効率的な活用のあり方を模索しようとする取り組みも進められています。

より効率的で安定した高齢者介護サービスのためにICT化・情報化は、いかにあるべきなのか。さらには、効果的で質の高いサービスを実現するには何が必要なのか、先進事例に学びながら議論したいと思います。

2 テーマ

福祉・介護の実践としての情報の活用—高齢者介護サービスの効率化と安定化—

3 日時

2010年12月12日(日) 10時30分～17時30分

4 会場

関西学院大学大阪梅田キャンパス

(大阪市北区茶屋町19-19 アプローチタワー10階 1004教室)

http://www.kwansei.ac.jp/kg_hub/

5 主催

日本福祉介護情報学会

6 開催校

関西学院大学

7 プログラム

10:30 受付開始

10:35～12:45 **自由研究発表**

12:45～13:30 休憩

13:30～14:00 **学会総会**

14:10～14:50 **基調講演**

「地域ケアの展望と情報化～生活圏域での地域密着サービスの視点から～」(仮題)
森本佳樹 副代表理事(立教大学)

15:00～17:15 **シンポジウム**

「福祉・介護の実践としての情報の活用—高齢者介護サービスの効率化と安定化—」
・青森県社会福祉協議会における緊急通報システムと“おげんき”発信の一体化
小川晃子理事(岩手県立大学)

・音声入力を活用したケアプラン業務効率化への取り組み(仮題)
小笠原あゆみ氏(サイバークラーク研究所)

・ITを活用した24時間訪問介護サービス効率化への取り組み(仮題)
米澤麻子氏(NTTデータ経営研究所)

(コーディネーター) 生田正幸副代表理事(関西学院大学)
(コメンテーター) 調整中

17:15～17:30 事務局より連絡・閉会あいさつ

18:00～ 懇親会

*詳細は、同封の要綱をご覧ください。

2. 学習会報告

日本福祉介護情報学会理事
(株)日立製作所 前田 みゆき

9月11日(土) 14:00~16:00、立教大学池袋キャンパスにて、「社会保障カード(仮称)実証事業結果報告」をテーマに、2010年度の学習会が、約60名の参加者を得て開催されました。

社会保障カードをテーマにした学習会は、社会保障カードの検討状況にあわせて、2008年、2009年と連続して開催してきました。今回の学習会は、昨年9月より実施されている社会保障カードの実証事業の結果報告ということで、いわば一連の社会保障カードの学習会の総まとめの位置づけです。

当日は、厚生労働省 情報連携基盤推進室 室長補佐 里村浩氏が「社会保障カード(仮称)の制度設計に向けた検討のための実証事業について」と題して講義。まず、社会保障の現状と課題、社会保障カード構想について、簡単におさらいいただいた後、昨年9月より全国7箇所で開催された社会保障カードの実証事業について詳しく報告いただきました。鴨川市社会保障カード事業コンソーシアム、日立製作所・名張市社会保障カードコンソーシアム、わかやま安心医療・社会保障カードコンソーシアム、いずも医療カード利用促進コンソーシアム、かがわSSCコンソーシアム、福岡経済情報基盤コンソーシアム、おおむら社会保障カードコンソーシアムの各実証事業の概要および検証結果報告があり、特に、セキュリティに関する検証については、技術的には運用上問題ないレベルであるが、住民の不安も大きいという課題も明らかになったとして、第三者監査機関の設置等を検討すべきという提言がありました。最後に、社会保障・税に関わる番号制度の検討状況の説明があり、社会保障カードは、今回の実証事業の成果を活かしつつ、社会保障・税に関わる番号制度の議論の中で検討されるだろうという今後の方向性が示されました。

講義後の質疑も非常に活発に行われ、来年度予定している社会保障分野における情報連携の調査において、ぜひとも検討して欲しい項目等の言及もありました。

なお、本テーマは、今回で一区切りです。今後も会員の皆さんのニーズに応じて学習会を企画していく予定です。開催を希望されるテーマがありましたら、学会事務局までお知らせください。

3. 学会紀要について

日本福祉介護情報学会理事・学会誌編集委員会
(関西学院大学) 生田 正幸
(北翔大学) 林 恭裕

(1) 第6号

現在編集中ですが、構成は、次のとおりです。

もう少し、お待ちください。

(1) 巻頭言

超高齢社会における福祉の展望と情報システムについて

東京大学高齢社会総合研究機構教授 辻 哲夫

(2) 投稿論文 2編

(3) 第9回大会シンポジウムの要旨

(4) 北海道保健医療福祉情報システムの顛末記

(2) 第7号

第7号は、福祉・介護サービスの「記録」に関する特集を予定しています。

4. 「福祉・介護の情報学」について

日本福祉介護情報学会理事・ニュースレター担当
(岩手県立大学) 小川 晃子

「福祉・介護の情報学—生活支援のための問題解決アプローチ」(オーム社、2,600円税別)の出版は、設立10周年を迎えた本学会の有志と、事例を提供いただいた実務家の方々との協働、及び株NTT データシステム科学研究所と株オーム社のご協力で実現したものです。

本書は、様々な対人支援の業務に携わる方々が活用すべき情報技術の諸手法について、実践事例に即して解説を試みたもので、初学者にも経験を積んだ方々にも情報を適切に扱うことにより問題解決をはかるための手法が習得でき、生活支援という業務の面白さが体感できるように編集してあります。会員が担当している「社会福祉情報論」などの大学の講義において、テキストとして活用もはじまっています。

会員の皆様には、ぜひご一読いただき、今後の改訂に向けてご意見・ご評価をいただけますよう、お願い申し上げます。

5. 事務局から

日本福祉介護情報学会理事・事務局
(東京都社会福祉協議会) 須永 誠

ニュースレターのご送付に合わせて、第11回大会のご案内を同封いたしました。たくさんの方のご参加をお待ちいたします。

加えて、本年度会費等の未納入の会員に対しましては、「会費等再請求」の書類を同封いたしました。早めのご入金をお願いいたします。

なお、これに伴って「領収書」が必要な方は、学会事務局あてにメールでご一報ください。今回の送付先あてに郵送いたします。

この封筒のあて先や、ご所属・メールアドレス等に変更が生じている会員におかれましては、事務局あてにお知らせください。今年度は、さらに紀要第6号ほかの送付も予定されておりますので、支障なきよう、早めのご連絡をお願いいたします。

■ 会員加入状況 (2010年9月末日現在)

正会員 120名 / 学生会員 18名 / 名誉会員 1名

~~~~~      ~~~~~      ~~~~~      ~~~~~

### (編集後記)

今号は、12月に開催される研究大会のご案内が中心の編集です。師走の大阪で皆様におめにかかれることを楽しみにしております。

日本福祉介護情報学会理事・ニュースレター担当  
(岩手県立大学) 小川 晃子